

学校教育目標
自ら伸びる ともに伸びる

めざす子ども像

主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒

研究主題

主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成
～授業や生活における居場所づくりを通して～

研究仮説
集団の特色にあった適切な集団づくりを通して、児童生徒の居場所をつくる取組を行えば、主体的に相互が関わり合って伸び合おうとする児童生徒が育成されるであろう。

授業における居場所づくり

- ・ ICT 機器等を取り入れることで、生徒指導の三機能を生かした授業を行う。
- ・ 対話（自己内対話も含む）を取り入れることで、学びを深めるとともに、授業満足度の高い授業を行う。
- ・ 家庭学習や次の学びにつながるような「振り返り」等を工夫し、児童生徒が主体的に学習する授業を行う。

生活における居場所づくり

- ・ 学校生活の中で児童生徒が自己肯定感を高めることができるように、児童生徒主体の取組を行う。
- ・ 児童生徒や保護者と SC や SSW がカウンセリングの機会をもち、教室への橋渡しや、登校回数の増加を図る。
- ・ SSR やそれに準じた教室の利用を促進し、登校しにくい児童生徒が目標をもって過ごせるようにする。

授業改善・生活の場の工夫による居場所づくり

